

着脱の機能性を考慮したバレエ衣装の制作

A20AB001 安藤 実佑

1. はじめに

1-1 目的

近年、東京パラリンピック開催の影響等もあり、パラスポーツへの認知度や注目度が非常に高くなっており、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する取り組みも浸透してきている。身体の障害をもつ人の衣生活において、着脱動作が最も負担がかかるとされ、実際にスポーツ界でも着脱を考慮したスポーツウェアが開発されている。しかし、着脱動作は誰もが常に行う行為であることから、対象が障害者でない衣服についても、着脱に関して再検討することで、ユニバーサルデザインの概念を取り入れた快適な衣服の拡大が見込めると考える。

筆者が習っていたクラシックバレエに着目すると、バレエ衣装は一人での着脱が困難であるが、これまでバレエ衣装の着脱性に関する研究はみられない。着脱作業が容易になることで、衣装の装着時間を短くでき、きつく締めて着用するバレリーナの心身への負担を軽減できると考えた。

そこで本研究では、最適な留め具や「明き」の位置を明らかにし、機能性に優れた新たなバレエ衣装を制作する。

これら着脱の機能性の検討は、着用時の便利性や衣装管理の簡素化だけでなく、バレリーナが踊ることにより注力できる環境作り、舞台上での演技向上に貢献できると考える。

1-2 バレエ衣装の現状

現在、バレエの練習着については、図1のように、チャコット株式会社が、バレリーナの体型を美しく見せ、踊りやすいため、新たな素材やパターンを用いた「ローザンヌレオタード」¹⁾を発売している。



図1 ローザンヌレオタード

一方、バレエ衣装は長年において変化がみられない。表1に示したように、明き位置は後ろ中心で、ホックとムシ(ループ)により制作されたものがほとんどである^{2)~5)}。従来のバレエ衣装の華やかさ、形状の美しさを保ちつつ、着脱の機能性を向上させられる方法を検討していく。

表1 バレエ衣装の現状調査

店名	ユキワードローブ	アトリエクラシック	衣装畑	Chutti
衣装写真(前)				
衣装写真(後ろ)				
明き・留め	後ろあき ホック(凸)とムシ	後ろあき ホック(凸)とムシ	後ろあき ホック(凸)とムシ	後ろあき ホック(凹と凸、紐)

2. 着用評価実験

最も着脱しやすい明き位置を明らかにする為、若年女性6名を被験者とし、ウエストニッパーを用いた着用評価実験を行った。明き位置を前中心・後ろ中心・右脇・左脇、中心と脇の間の右前・左前・右後ろ・左後ろの8箇所に設定し、それぞれの着易さと脱ぎ易さを5点満点で評価させた結果の平均を図2-1、2-2に示した。着易さ、脱ぎ易さ共に「右前」が最も高い評価であったため、制作には「右前」を明き位置に採用した。

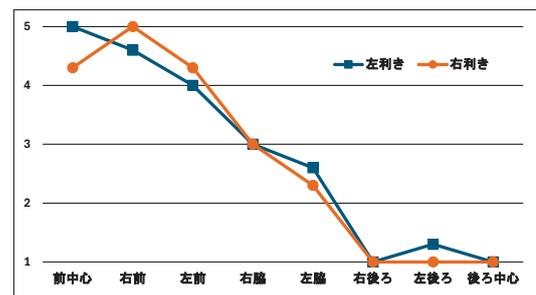


図2-1 着易さに対する評価の平均

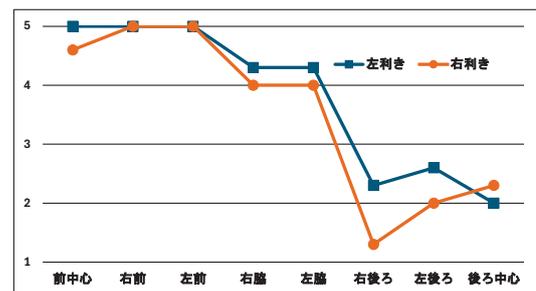


図2-2 脱ぎ易さに対する評価の平均

3. 明きの物性試験

これまでのカギホックの明きに拘らず、適した留め具を検出するためにシーチングを台布として、コンシールファスナー、前カン2種類(大と小)、スプリングホック3種類(大、中、小)をそれぞれ縫い付けた試料(1)~(6)を作成した。試験は、尾張繊維技術センターにて、JIS L1093 繊維製品の縫目強さ試験方法 A-1法(縫目水平法)に従い測定した。

得られた各試料の縫い目強さを図3に示した。また、各試料の試験前と試験後の画像を表2に示した。

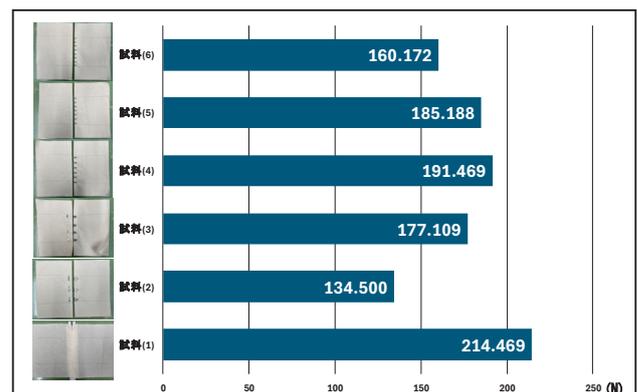


図3 各試料の縫い目強さ

表2 試験前と試験後の試料の様子

留め具	試料(1) コンシールファスナー	試料(2) 前カン(大)	試料(3) 前カン(小)
試験前			
試験後			
留め具	試料(4) スプリングホック(大)	試料(5) スプリングホック(中)	試料(6) スプリングホック(小)
試験前			
試験後			

試験前と試験後で最も見た目の変化が小さかった試料は、試料(1)のコンシールファスナーであり、数値においても試料(1)のコンシールファスナーを用いた場合が最も強いという結果となった。そのため、制作の留め具はコンシールファスナーを採用することとした。

4. 作品制作

4-1 デザイン画

前記の着用評価実験、物性試験の結果から、明きを右前に留め具にはコンシールファスナーを用いた図4のようなバレエ衣装をデザインした。形状はバレエ衣装の中で最も使用頻度の高いクラシックチュチュの形で、明きの上部は、胸元の装飾で覆うようにしてコンシールファスナーを隠すことで、見た目の美しさを損なわないようなデザインにした。



図4 デザイン画

4-2 制作方法

身頃のパターンは、着用者の体型によりフィットした状態にする為、図5に示したテープ法による人体採取から作成した。明きは、身頃(d)と(e)の間に作る。

スカート部分、身頃の縫製方法については『バレエの衣装を作ろう! Clara編』(2002年:新書館)を参考にした。



図5 テープ法による人体採取

図6のように、二枚重ねたパワーネットで制作したパンツに、全てダブルたたみにした長さの異なるチュールを縫い付け、5段のチュチュを作成する。シャンタンで制作した身頃とスカートを縫い合わせ、明きの部分はコンシールファスナーで留める。ウエスト、脚のつけ根、肩にゴムを付け、装飾を行う。



図6 スカートの制作の様子

5. 完成作品

明き部分の開閉時の状態を図7に示す。従来とは異なる、前側に明きがありコンシールファスナーを用いたバレエ衣装となっており、胸元の装飾は、明きの上部にかかる部分のみスナップボタンで留めている。完成作品の着用写真は図8の通りである。



図7 完成作品の明き部分



図8 着用写真

6. おわりに

本研究では、一人での着脱が可能である新たな形のバレエ衣装が制作でき、着脱に要する時間の短縮、着脱の機能性の向上は確保できた。

これまでのようなホックとループからファスナーを用いた設計にしたことにより、個人の身体に合わせた制作となる。一方でレンタル衣装や同じ衣装を調整して使いまわすことは難しくなることが判明した。本研究で機能的な明き位置など解明できたことから、さらに着用者の汎用性を考慮した衣装が開発されることを期待したい。

7. 参考文献

- 1) ローザンヌレオタード | チャコット
<https://shop.chacott.co.jp/event/914.php>
- 2) レンタル・オーダーメイドバレエ衣装1 Yuki Wardrobe
<https://www.yukiwardrobe.com/>
- 3) ATELIER Classic Online shop
<https://atelierclassic.stores.jp/>
- 4) バレエ衣装・チュチュレンタル 衣装畑のホームページ
<https://ishoubatake.com/>
- 5) バレエ衣装格安オーダー | バレエ衣装専門店Chutti
<https://mtdance.shop-pro.jp/>
ATELIER Classic Online shop